

# 第七回 九州戯曲賞 最終審査過程

九州地域演劇協議会まとめ

## ■ 最終審査日時等

平成27年7月12日（日） 福岡アジア美術館 会議室

## ■ 最終候補作品（5作品）

守田 慎之介	（福岡県行橋市）	『草、のびて、家。』
村山 優一郎	（熊本県八代市）	『あまえんぼう山頭火』
日下 渚	（大分県大分市）	『あなた、咲いた』
山下 晶	（福岡県福岡市）	『晴レタラ、見エル。』
河野 ミチユキ	（熊本県熊本市）	『チッタチッタの抜け殻を満たして、と僕ら』

## ■ 最終審査員

岩松了 中島かずき 横内謙介 岩崎正裕 前田司郎

## ■ 審査結果

大賞 河野 ミチユキ（熊本県熊本市）『チッタチッタの抜け殻を満たして、と僕ら』

## ■ 授賞方針等

- ・大賞作がでた場合、原則として他の賞は出さないものとする。
- ・大賞作の水準に達する作品がない場合は、大賞なしとする。
- ・大賞作がない場合、佳作・奨励等の賞を出すことが出来る。

## ■ 審査過程

各作品について、審査員からの講評を行う。

### 『草、のびて、家。』（守田 慎之介／福岡）

学校教頭をしている父親がわいせつ物の頒布の罪で逮捕され、戸惑う残された家族とその周辺の話。

台詞の選び方や、空気、家族が家の中にいるしかないという状況に演劇的な面白さを感じる。おにぎりが世間の総意の象徴となっている点は面白いが、宗教というモチーフの扱い方や罪を犯した父親についての説明が不十分。戯曲の表面には現れてこない内面の部分が隠されすぎていて、何を描きたいのかつかみにくいという見方があった。

### 『あまえんぼう山頭火』（村山 優一郎／熊本）

家を捨て、妻子を捨てて旅を続け、多くの句を残した実在する放浪の俳人、種田山頭火が家族と過ごした一年と数ヶ月の話。

郷土の実在の人物にスポットを当てる、妻や息子とのエピソードを用いるなど、着眼点は良い。山頭火のキャラクターを「憎めない」というセリフで説明し、それ以上のものが伝わってこない。周囲の人は皆、人間的にダメな山頭火の良さを認める中で、息子だけがそれを理解できず、山頭火が真人間になった後に孤独を感じるという構成が良いという評価があった。

### 『あなた、咲いた』（日下 渚／大分）

母がいて祖母がいて、自分がいて庭には朝顔が咲く。女性だけで構成された家族を中心とし、それを取り巻くものを見つめた物語。

それぞれのキャラクターの置き方、後味の良さなど好感が持てる戯曲である。生きた人の実感のようなものがこの作品にはうまく込められている。やはりそう来たかという展開は後味が良いが、言い方を変えれば紋切り型である。父親の不在や娘の恋愛話、「不思議な少女」の位置づけなどはもっと効果的なやり方があったのではないかという指摘があった。

### 『晴レタラ、見エル。』（山下 晶／福岡）

日本の劇作家と韓国の主演女優、言葉の通じ合わない同士で演劇作品を創作する話。物語の登場人物に通訳を交え、字幕を使わずに日本語と韓国語が入り乱れる特徴を持つ。

言葉がわからない者同士が、言葉がわからないまま物語が進んでいき、観客も同じ時間軸で体験できる作品の構造や狙いが面白い。日本語と韓国語に苦戦する作中の劇作家菊川の本の面白さが伝わってこない。コミュニケーションや文化のずれが話の枠組みとなっているが、途中で話が難病ものになってしまい、小さくまとまっているという講評があった。

### 『チッタチッタの抜け殻を満たして、と僕ら』（河野 ミチユキ／熊本）

約20年ぶりに集まった幼なじみが、子ども時代に死に別れてしまったチッタチッタと呼ばれる少女と再び出会う。チッタチッタという言葉の意味を知る少女の母と、幼なじみとの物語。

幼い日の個人的な体験や感覚など、人の根っこにある部分に触れる書き方を感じた。登場人物たちが自覚なく犯していた幼い日の罪をただ回復するのではなく、決別の言葉で終えている点に、いい話でまとめない作者の演劇的態度が表れている。チッタチッタの特徴を示す台詞をもう少し印象づけられたらよかった、という意見があった。

各作品の講評に続き、票数制限なしで「○・△」の投票種別にて、1回目の投票を行う。

『草、のびて、家。』○1票 △1票

『あなた、咲いた』○2票

『晴レタラ、見エル。』△4票

『チッタチッタの抜け殻を満たして、と僕ら』○1票 △2票

(休憩)

投票結果を受け、得票のあった候補作について討議を行った。作品への議論を深めていくなかで、受賞候補作が『あなた、咲いた』と、『チッタチッタの抜け殻を満たして、と僕ら』の2作品に絞られていく。

一人あたり1票を持ち票として、2回目の投票を行う。

『あなた、咲いた』2票

『チッタチッタの抜け殻を満たして、と僕ら』3票

投票結果ならびに受賞方針等を踏まえた上でさらに議論を重ねる。

最終的に審査員の意見の一致を見て、『チッタチッタの抜け殻を満たして、と僕ら』が大賞作品として選定された。